

平成 21 年 3 月

鈴木康江 学位論文審査要旨

主 査 黒 澤 洋 一
副主査 福 本 宗 嗣
同 岸 本 拓 治

主論文

乳がんの罹患要因に関するコホート研究

(著者：鈴木康江、岡本幹三、尾崎米厚、田原文、岸本拓治)

平成21年 米子医学雑誌 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肥満や血清脂質などが乳がんのリスクにどのような影響を与えているのか、明らかにすることを目的に、基本健診データから得られる各種健康指標及び地域がん登録データを活用して、後ろ向きコホート研究を実施したものである。その結果、乳がんは全年齢で肥満が有意にリスクを増加し、低HDL-Cでリスクが有意に減少した。55歳未満では有意な結果は認められず、55歳以上では肥満で有意にリスクが増加し、低HDL-C、高HDL-Cでリスクが有意に減少したことがわかった。本論文は乳がん対策の保健予防活動に有用な罹患要因を明らかにし、学術水準を高めたものと認められる。